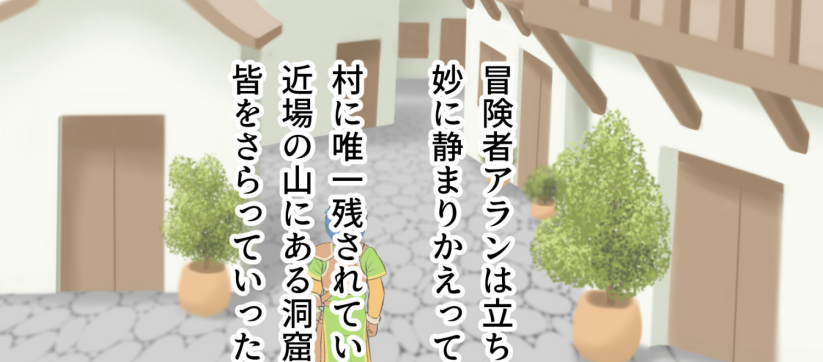




JUJUTSU KAISEN 2



冒険者アランは立ち寄った村に人気が無く
妙に静まりかえっていることに気が付いた。

村に唯一残されていた娘が言うには
近場の山にある洞窟に巣くうオーガの一団が
皆をさらっていったのだと言う。



名刺を得るため

困った者は放っておけないアランは洞窟へ向かうと
入り口にこれまで見たことないスライムが立ち塞がるも
色々あって撃退に成功し洞窟の奥を目指すのだった……。





「あんだあ？ テタエ？ ……ははあ？
妙に騒がしかったのはお前のせいだな？」

ド

ン



ビシッ

今すぐに
解放しろ!!

貴様が村の人達を
さらったと言う
オーガだな!?



嫌やありなこつたね
せつかく苦労して
集めた奴隷だぜ?
タダで手放すハズが
ねえつて分かんだら



力尽くで奪い
返してみやがれ!!

「筋は悪かねえけどそれじゃあ
あたしは倒せやしねえな」

「うぐぐ…クソ…
な…なんで裸に……」

「あ〜ん？ 察しが悪い奴だな
敗者を辱めるのは勝者の
務めつてもんだろ？♥」

グ
ン…

ギョッ

「クソ… そんな務めがあつてたまるか……」

バ
ッ

バ
ッ



「まゝまゝそう言うなつて

悪い思いはさせねえからよゝ♡」

「んぐ… じゃあこの手を離してくれ……!」

「んぐそれは聞けねえお願いだな」

びびるん

むぢ

むぢ

んぐ…

んぐ…



「にしても助かったぜ♡
あの村の奴ら腑抜けばつかで犯す気にも
なりやしねえからこのムラムラを
何で発散してやろうか頭抱えてたんだよ♡」



「げす
下衆が……!」

「ククク： お前みたいな活きの良い奴あ
経験上ち○ぽも元気なんだよな♡」



「クソ…黙れ……」

ふう〜

ふう〜

わろお.

ピカッ

「ああ〜ん？ 仕方ねえな〜 黙ってやるよ♥」

「うむっ!？」

「んちゅ♥ オラ もっと舌絡ませろや♥

あと涎飲ませろ♥ じゅぞぞぞぞ!!♥」

「んんうううっ!!」

じゅぞぞ

じゅぞぞ

むっちゅっ

ちゅじゅ!!

ちゅむっ





「ぶつはあ〜っ!♡ ああ〜美味えな〜♡
やっばレイプ前のキスは最高だぜ〜♡」

「はあ… はあ… 訳の分からないこと
言っていないで… 早く離せえ……」

ぶいっ

ぶいっ

ぶいっ

やっば…

「まゝまゝ落ち着けつて… ああ〜ん?♡
なんだお前キスしただけでピンピンに
なつてんじゃねえか♡」

「こ…これは違う……!」

「なあにが違うつてんだよ♡
ちよつとチヨ口過ぎやしねえか?♡
手間が省けるから助かるぜ♡」



「むぐぐ……どうゆうことだ…!?
そこをどけえ……」

「おうおう つくづく察しが悪い奴だな
退く訳ねえだろ 舐めろって事なんだからよ♡」



むち

むち

むち

むち

むち

のし

ぐぐ

「はあっ!? クソ…… 調子に乗…… んむおっ!!
んぶおっ!! う…動くな…… んんむうっ!!」

ずりゅ

ぬりゅっ

ぬちゅちゅ
ずりゅ

「あああ♡♡♡…んおおっ!!
その調子で喚びて暴れる♡
下手な奴のクソニよりよのほど気持ちさらせ♡
おほおおっ!!♡ ああ…やべ…来る来る来る…♡」



びびる

びびる

びびる

びびる

びびる

びびる

びびる

ぬちゅちゅ

ぬちゅちゅ

ずりゅ

ずりゅ

「ふう〜… ふう〜…♡ あああ〜♡
軽く逝つちまったじやねえか…♡
アタシをどうしようってんだ〜？♡ んん〜♡」

「うえへっ!! げほっ!! ペー! ペー!
し… 知るか!! お前が勝手にやっただろ!!!」



「あらよ…つとー」

「ぬわっ!? 次は何だつてんだ!? 降ろせ!!」

ふうー

ふうー

んっ
んっ

んっ

んっ

「まゝまゝ…なっ!♡
そうカツカすんなって♡
今度は気持ちよくしてやっからよ♡」

ヒョイ



「クククク♥ 間近で見ればプリッププリで
美味そうなギンタマしてんじやねえか♥
こんなモンぶら下げてるとか
アタシの事誘ってんだろ♥」

「はあ!? 訳わからんこと言ってるので
さっさと降ろせー!」

「うっせえな〜 分かった 降ろしてやるよ
たっぷり臭いと味を堪能してからな♥」

「クン〜っ!!! 止めろ〜っ!!!」



「まずは臭いの方を… すう〜〜〜」

「気色悪い事してんじゃねえ!!」

「ああ〜ん……? 生臭えこの臭い……
ラミイの臭いじゃねえか!!」

「は…? ラミイってあのデカいスライムか……?
アイツなら俺が始末しておいてやったぞ!」

「あんの野郎!!」

上玉には手え出すなって散々言ったってえのに!
チクシヨ〜… 「一番搾りじゃねえのかよ……!」

「あ… あれ……? 想定と違う

悔しがり方してない……?」

もぞ

ピッ

ピク

ピキキ

スツ

スツ

ピク

もぞ

「まあ今はこうしてアタシの手元にいるし良いか♡
始末してくれたたってんなら躰の手間も省けるつてもんだ
ご褒美をくれてやるぜ♡ んれえ♡」

「んおおっ!!」

れろおん

「んんん♡♡♡ 汗のしよっぱさが残ってんな……♡♡♡
ラミイのやつキンタマしやぶり損ねてやがんな♡」

ビクッ♡
ビクッ♡♡♡



「んじゃ じつくりと堪能させて貰いますか〜♡
んれろお♡ ねろれろれろ♡」



「おおおぐっ♡ や…止め……♡
んおおおおおぐっ♡」

にゅちゅ
びゅ
にゅ
べろん
ぬちゅぬ
にゅ
にゅ

「ああ〜……キンタマだけじゃ我慢できねえ!!♡」

か
い
ぱ
っ

「ぬおおおうっ!?!」

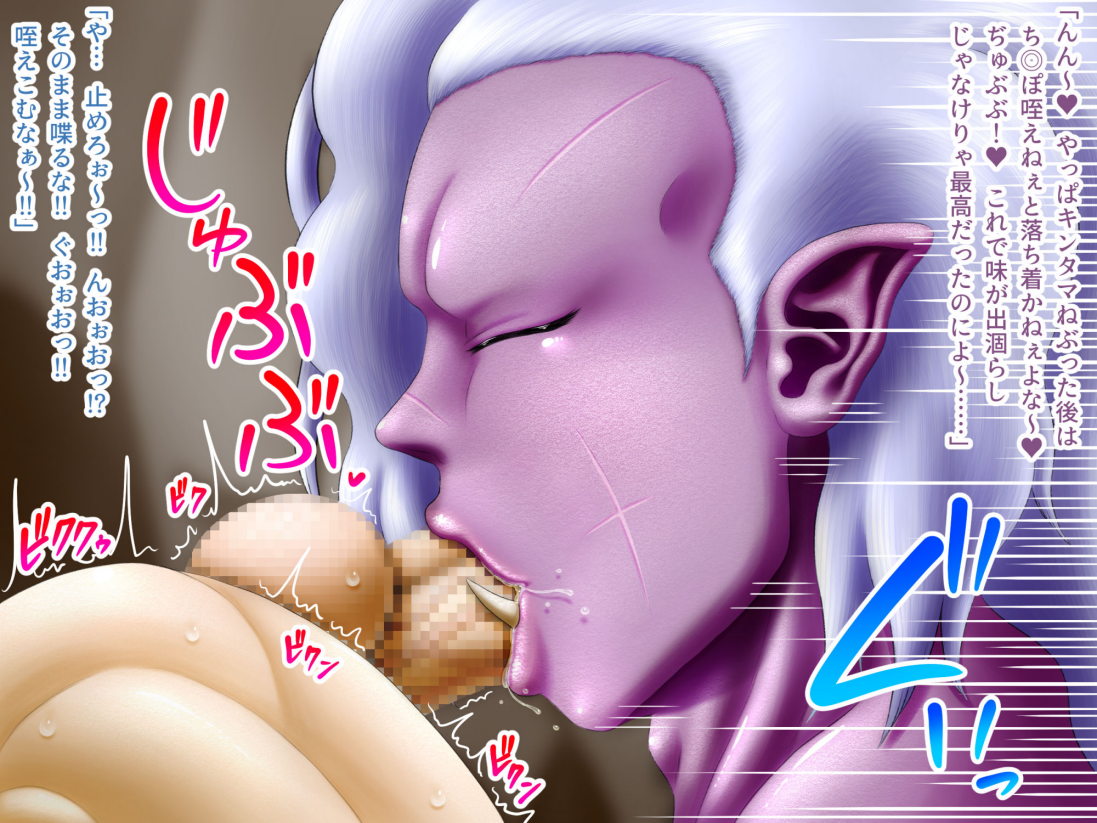


「んん〜♥ やっぱキンタマねぶつた後は
ち◎ぼ啞えねえと落ち着かねえよなく♥
ぢゅぶぶ〜♥ これで味が出廻らし
じゃなけりや最高だったのによ〜……」

!!
!!
!!

じゅぶぶぶぶ

「や… 止めるおっつ!! んおおおっ!!
そのまま喋るな!! ぐおおおっ!!
啞えこむなあ〜!!」



「ああ、はいはい、分かったよ
じゃ、これでお終りにして……」

「んおおおおお……！
は……早く止めろお……！」

ずろろろろ

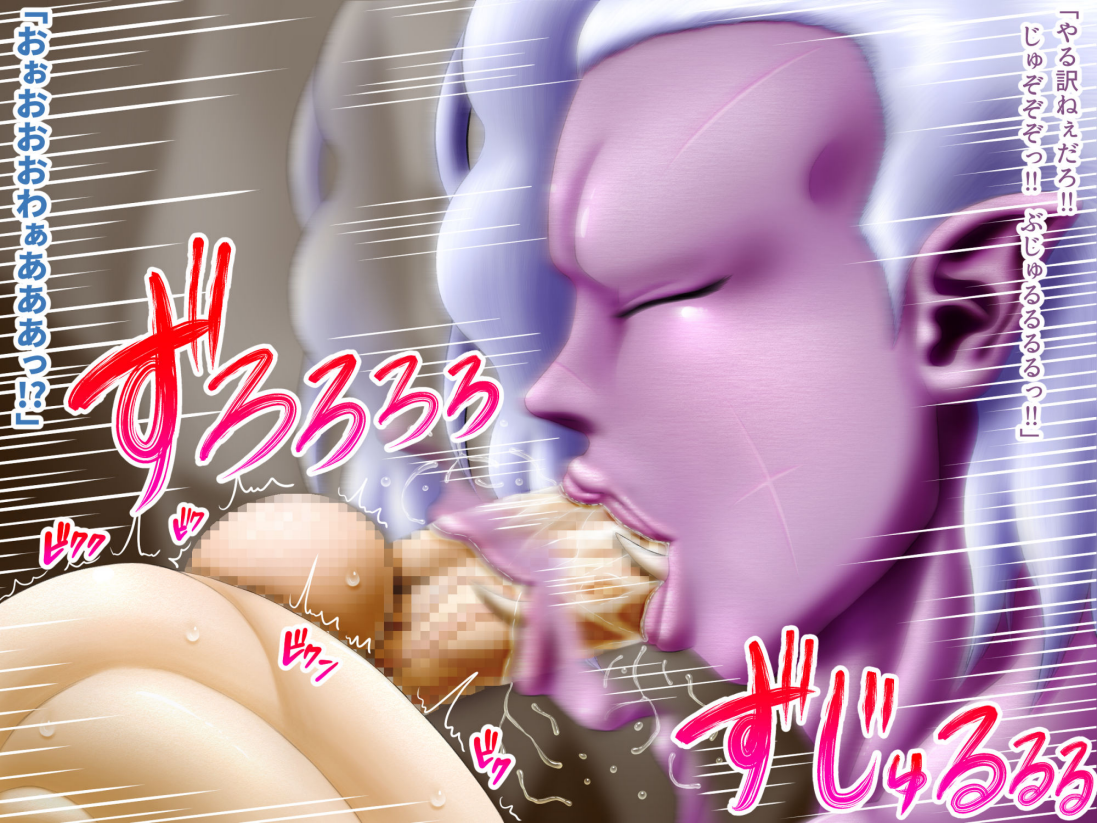


「やる訳ねえだろ!!!
じゅぞぞぞっ!!! おじゅるるるるっ!!!」

「おおおおわああああっ!!!」

ずろろろろ

ずじゅるるる



「つぶはあー!♡ おいおいいくらなんでも
身悶え過ぎじやねえか?♡」

「はあー… はあー… う… うるさい…!!
こんな事さつさと止めろ!!」



はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

はあー

「そつだなー 味薄いち◎ぼ長々としゃぶつても
仕方ねえし前戯はこんなもんでいいか♡」
まえおき

「54043」

「54043」

「ラミイのやつに何発か
抜かれただろうからな
これ以上無駄射精
されちゃ困るぜ?♡」

「はあ... はあ... クン... ぐん...」



ぶっ
ぶっ

むち

た139

た139

ぽっ

ぽっ

1393

1393

じた

じた

のっ...

ぐんぐん

ぽっ

ぐんぐん

ぽっ

ぽっ

「ああ〜ん？ どれだ？ 仕方ねえな
じゃ〜ちよつとだけどいてやるよ♡」

「んんううっ!! 腰を止めろ!!
挿入れようとすんなっ!!」

「お〜?♡ 今回は察しが良いじゃねえか♡
この… んん〜…… んおっ!!♡
ククク♡ 残念だったなあ?♡
アタシのま◎こがお前のちんぽに
喰らいついたぜ〜?♡」

「止める!! 挿入れるなっ!! 抜けえっ!!」



たぶるん

むちっ

たぶるん

ピク

くき

ぬち

ぬち

ピク

く

ピク

く

ピク

ピク

ピク

「んほおおっ!!♡♡♡」



「っああああっ!!」

あ

ん♡



「くっく〜……♡ 良い所えぐって来やがるっ！♡
思ってたよりずっと具合が良いじゃねえか！♡」

「ああああっ！！ クソっ！！ 抜けえっ！！」

ばるん ばるん

はっ

はっ

ぶるん

ぶるん

たばん

「ふざけん……なあああつ!!
止め……!! ぐあああつ!!」

「ああ抜いてやるよ!!♡
キンタマの中身せりんぶ搾りつとたらな!!♡
オラオラオラあ〜っ!!♡♡♡」

ぶち

ぐち

ぬち

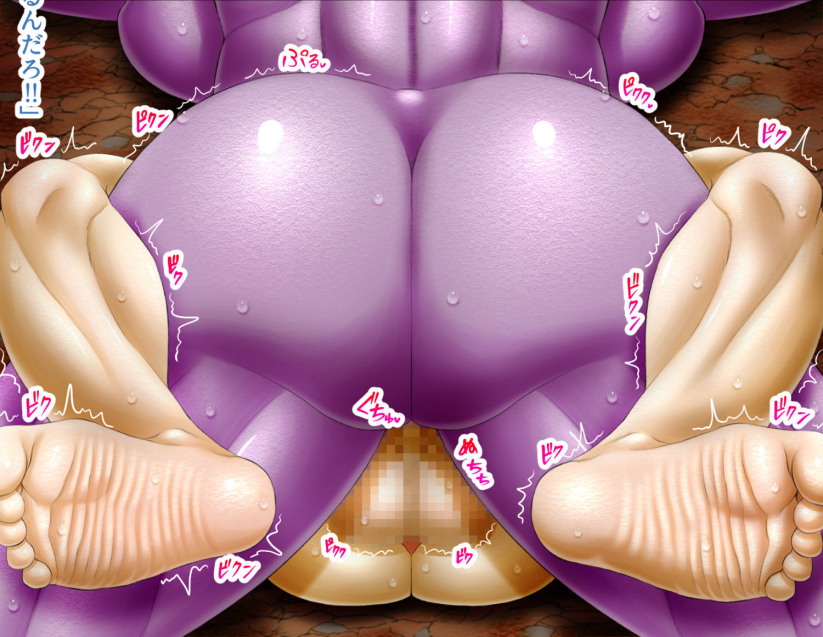
ばちん

ばち

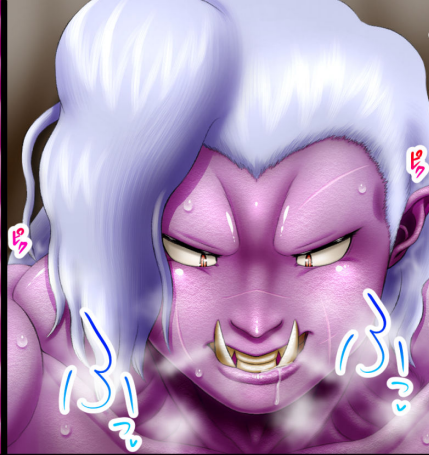
「んほおっ!!♡ しかも子宮にぶちゅぶちゅ
キスしてきやがつて!!♡」



「んんうっ!! 貴様が腰を擦り付けてきてるんだろ!!!」



「うるせえ!! 色気付いた生意気なち◎ぼしてやがる罰だ!!
体もち◎ぼもこのままぶっ潰してやるよ!!」
♡



「んだよ! クソ……! ああああつ!!!」

ぶちゅ

ぐちゅ

ぶちゅ

ぬちゅ

ずちゅ

ぬちゅ

ぐちゅん

いちゅ



「ぬんっ!!」

ぐぐぐ...

んんん...

「んんん...!!? うああああああつ!!
つ...潰れる! 千切れるっ!!!」

もり

もり

もり



み

ち

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

びゅ

むき

みち

びき

びゅ

みき

みき

びゅ

「ぐあああああああつ!!」

「おっほおおおっ!!!♡♡♡」



ピルルルル

ピチ

ピチ

ピチ

ピチ



ひゅるりゃ

ひゅるりゃ

「グクククク♥ お前気に入ったぜ!!♥
奴隷市に売らずにキープだな♥
これから毎晩頼むぜ……!♥」

「うぐぐ… ふざけるな……!」



「ああん? 本気だっつーの♥」

「ん…ん…」

ん

ん

ん

ん

んるん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん



終